

令和3年10月29日

## 令和4年度 重点的に取り組む研究項目について

環境保健研究センター

### 1. 策定の趣旨（位置づけ）

令和3年3月26日、令和3年度からのセンターの基本的機能や長期的な業務のあり方等について具体化・明確化を図るため、「長崎県環境保健研究センター運営方針」（第4期）を策定し、3つの基本目標「環境の保全」、「生命・健康の維持」、「食の安全・安心の確保」を掲げている。

この運営方針の中で、「複雑多様化した社会情勢の中、効率的、効果的な研究成果を示すため、時代に合わせて研究テーマを適切に選択し、又は研究を継続発展させることで、研究内容を重点化し、持続的な研究機関としての体制を確保する。具体的な重点項目については、別に定める。」と規定しており、長崎県総合計画や関係する個別計画の実現に向けて、令和4年度に重点的に取り組む研究を明らかにする。

### 2. 重点化にあたっての視点

#### （1）環境の保全

近年、地球温暖化の影響と見られる異常気象（集中豪雨、猛暑日増加など）がたびたび起き、自然災害の頻発化・激甚化が生じており、気候変動への対応が求められている。

気候変動の影響は地域の地理的・社会的な特徴により大きく異なり、特に長崎県は海に囲まれた複雑な地形を有しており、自然災害のみならず、農作物の品質低下、水産生物の変化、熱中症・感染症の増加など、様々な分野で気候変動の影響が発生するおそれがある。

県では、令和3年3月に策定した「第2次長崎県地球温暖化（気候変動）対策実行計画」において、省エネルギーなどの緩和策に加え、気候変動の影響による被害の防止・軽減策（適応策）を盛り込み、農林水産業、自然災害、健康等の各分野で施策・事業に取り組んでいる。本年、センター内に「長崎県気候変動適応センター」を設置し、国の気候変動適応センター（国立環境研究所）や長崎地方気象台等と連携して、

県内の地域特性に応じた気候変動の現況や適応策に関する調査研究や関連情報の収集・整理・分析を実施し、その内容を県民の皆様に広く提供していくこととしている。

また、閉鎖性水域である大村湾及び諫早湾干拓調整池については、水質（COD）が環境基準を達成していない状態であり、水質の改善が課題となっている。大村湾及び調整池は、ともに全水域が県内にあることから、県にとって貴重な財産でもあり、水質改善とともに、自然豊かな水辺づくり、県民の親水意識の向上に繋がる研究を行う。

## （２）生命・健康の維持

当センターでは、令和元年１２月に発生した新型コロナウイルス感染症、平成２１年の新型インフルエンザなどの新興感染症に対しても速やかに検査対応等を行ってきたところである。また、「長崎県福祉保健総合計画(令和３～７年度)」において、感染症対策の充実・強化が必要とされている。

未だ完全終息には至っていないが、新型コロナウイルスへの対応を精査したうえで、これまで経験したことのない経験を今後の業務に活かし、今後起こりうる新たな感染症等の発生時にはより迅速な検査対応、疫学解析、情報発信等を通して、県民の生命・健康被害防止の施策に資するよう、先行的に調査研究を行う。

## （３）食の安全・安心の確保

「第２次長崎県食品の安全・安心推進計画（令和３～７年度）」では、食品衛生に関する調査・研究を推進することとされている。

長崎県は海岸線が全国第２位の長さを示しており、県民にとって海産物は貴重で良質なタンパク源であり、また、大切な商品となっている。その安全・安心に繋がる予防策の検討や、食による健康被害や経済損失等を最小限にするための迅速な検査対応等の体制整備が必要である。これら食品等の問題の発生を未然に防ぐ観点から調査研究を行う。

## 3. 重点的に取り組む研究

以上、本県を取り巻く気候変動や脱炭素社会への動き、新型コロナウイルスへの対応といった状況等を踏まえ、令和４年度に重点的に取り組む研究項目を定めたの

で、以下に示す。

## < 重点的に取り組む研究項目 >

### 1. 環境の保全

#### ○地球温暖化緩和に関する調査研究

- 藻場におけるブルーカーボンに関する研究（継続）

#### ○気候変動適応に関する調査研究

- 長崎県における熱中症の発生の地域特性と気象との関連性に関する研究（継続）
- 食中毒原因マリントキシンに関する研究（継続）

#### ○閉鎖性水域の環境保全に関する調査研究

- 植物プランクトンの実態調査と発生抑制に関する研究（継続）
- 藻場におけるブルーカーボンに関する研究（継続）

### 2. 生命・健康の維持

#### ○感染源及び病原性の解明等に関する調査研究

- レジオネラリスクの迅速検出・現地評価方法の確立（継続）
- インシリコ解析/LC-MS 検出法に基づく新型コロナウイルス検査の実用性評価（継続）
- COVID-19 をモデルとした長崎県における感染症疫学解析体制の構築（新規）

### 3. 食の安全・安心の確保

#### ○食品及び医薬品等に関する迅速分析法に関する調査研究

- 食中毒起因化学物質の迅速分析手法の確立（継続）
- 食中毒原因マリントキシンに関する研究（継続）

# 重点的に取り組む研究項目（令和4年度）

目的

県民の生活環境の保全及び生命の安全の確保

基本目標

環境の保全

生命・健康の維持

食の安全・安心の確保

長崎県を取り巻く環境

## 【長崎県を取り巻く環境】

気候変動適応の問題

新型コロナウイルス感染症拡大

食の安全問題

越境汚染の問題

閉鎖性水域の水質悪化

医薬品の安全問題

調査研究

取り組み

### 【1. 環境の保全】

- ① 安全・安心で快適な環境づくりに関する調査研究
  - ・地球温暖化緩和に関する調査研究
  - ・気候変動適応に関する調査研究
  - ・大気汚染物質に関する調査研究
  - ・放射能業務に関連する調査研究
  - ・廃棄物に関する調査研究
- ② 豊かな環境づくりに関する調査研究
  - ・閉鎖性水域の環境保全に関する調査研究
  - ・生物を利用した水及び環境改善に関する調査研究

### 【2. 生命・健康の維持】

- ① 感染症の究明・拡大防止に関する調査研究
  - ・感染源及び病原性の解明等に関する調査研究
  - ・高感度迅速診断法及び予防に関する調査研究

### 【3. 食の安全・安心の確保】

- ② 食品及び医薬品等の安全性と信頼性の確保に関する調査研究
  - ・迅速分析法に関する調査研究
  - ・原因究明に関する調査研究
  - ・品質評価法に関する調査研究

※ 網掛け部分が重点項目

行政課題の解決や施策立案への提案